

ご縁の中で支えられ、生かされている

水害の苦難み教え依りどころに日々を過ごす

熊本県人吉市・村口芳子さん



人吉市内の次男宅に避難している村口芳子さん(左)と、長男の和彦(右)さん

7月4日に発生した球磨川の氾濫で、市街一帯が水没した熊本県人吉市。球磨川に面する同市下薩摩瀬町の村口芳子さん(86)、人吉別院門徒宅も泥水が襲い、1階天井近くまで水に浸かった。ところが仏壇前にあった経卓だけは被害を免れ、村口さんはその出来事を通して感じたことを本紙に寄せてくれた(9月10日号7面「読者のひろば」に掲載)。未曾有の水害に遭いながらも日々のお念仏を大切にされる村口さんを訪ね、思いを聞いた。

村口さん宅は全壊の勢ほど堆積し、仏間に被害認定を受けたた入ると毎日手を合わせ、同居していた長男といた仏壇は目をとおの和彦さん(65)、同別院いたくなる状態だった(総代)・洋子さん(68)た。

夫妻の3人は現在、人吉市内にある次男の憲すばかりだったが、や彦さん(59)宅に身を寄せている。

水害の発生した4日、早朝、村口さんは消防団の知らせに従って着の身着のまま避難し、被災した自宅に帰ったのは2日後だった。家の中には泥が40

み教えへ導かれた思い出の式章

母、息子の勧めで本山へ

大事な2本の式章。1本は蓮如上人五百回遠忌法要記念のもの、もう1本は村口さんの母・ツルノさんの形見だ。「実を言うと、私は五百回遠忌で本山に参拝するまでは、仕事人間でした。村口卓だけが綺麗な姿で残っていたことが本当に不思議で…。あまりの家の惨状に何も信じられなくなっていました。阿弥陀さまは確かにおられると感じました」と振り返る。

◇

「夫は平成2年に56歳で病死しました。それでも私は看護師として働くのに精いっぱい、まったく寺参りをさせていただったので、母・ツルノさんの思いが、お念仏を称える中と聞いていた長男・和彦さんは「母は叔母(芳)も話している」という子さんの妹)の家で3週間避難させていただいたが、そのお宅は曹洞宗なので阿弥陀如来さまのご本尊が、ご別院にご本尊を求めたいとお願したのですが、ご別院も被災したので、ご本尊が母の元に届いたのは8月22日のことでした」

「ご本尊が届くまでの一月半の間も、母は水害前と変わらず式章をかけてお念仏を称え、日々を過ごしていた。災害に遭って自宅を失ったことは大きなショックだったに違いない

い生活だったのに、母は「社会に出る前に京都のご本山へ一度お参りしなさい」と新しい着物と旅費を渡して本願寺に参拝させてくれた。今思えば、お念仏のみ教えを生涯の

阿弥陀さまに見守られている

泥まみれでもお念仏と共に

が、お念仏を称える中と聞いていた長男・和彦さんは「母は叔母(芳)も話している」という子さんの妹)の家で3週間避難させていただいたが、そのお宅は曹洞宗なので阿弥陀如来さまのご本尊が、ご別院にご本尊を求めたいとお願したのですが、ご別院も被災したので、ご本尊が母の元に届いたのは8月22日のことでした」

「ご本尊が届くまでの一月半の間も、母は水害前と変わらず式章をかけてお念仏を称え、日々を過ごしていた。災害に遭って自宅を失ったことは大きなショックだったに違いない